

## 工場廃液ろ過装置 強化

コンヒラ ポーアイに新工場

船舶用燃料油のろ過装置などを製造販売するコンヒラ(愛媛県今治市)

は神戸市の人工島ポートアイランドに新工場を建設する。首都圏や大阪へ交通の便がいい神戸を開発拠点とし、工場廃液のろ過処理など陸上向け装置の事業強化を狙う。

新工場は10月に完成し、2階建てで延べ床面積1028平方メートル。土地取得と工場建設の費用は計3億5千万円。神戸市が今年度から拡充した企業誘致制度の対象となり、固定資産税と都市計画税が5年間、9割減免される。

同社は顧客の依頼に応じたオーダーメイドで製品を開発する。主力の船舶向け装置は今治造船などが拠点を構える今治市の本社工場で生産を続け、神戸の新工場は陸上向け装置に特化する。

陸上向けは工場の省エネ化や二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)の低減を進める自動車関連企業などから受注が増え、売上高比率が4割に高まっている。顧客が関東や関西に集中しており、神戸を拠点に開発又ピードを上げる。

2015年10月期に21億円と見込む売上高を新工場の稼働に伴い16年10月期に2億円の増収を計画する。将来は船舶向けと陸上向けを合わせて売上高40億円を目指す。